

政官軍・経済界の重鎮から、学者・芸術家、ゴシップ的有名人まで

●近代日本を生きた10,302人●

# 明治大正人物事典

日外アソシエーツ 編 2011年7月刊行

## I 政治・軍事・産業篇

A5・720頁 定価(本体17,000円+税) ISBN978-4-8169-2328-9



9784816923289

## II 文学・芸術・学術篇

A5・740頁 定価(本体17,000円+税) ISBN978-4-8169-2329-6



9784816923296

### 圧倒的な収録人数の 本格的な人物事典

- 明治時代、大正時代に活躍した日本人10,302人を網羅した人物事典です。「I 政治・軍事・産業篇」「II 文学・芸術・学術篇」の2巻構成で、様々な人物を一覧できます。
- 後世に業績を残した人だけでなく、世相の話題を集めた人なども多数収録。各人物には、業績・話題・記録・職名・肩書など人物の横顔がわかるプロフィールを記載しているので、本格的な人名事典として利用できます。
- 各巻「分野別索引」付き。

#### 収録人物例

##### I 政治・軍事・産業篇

- 【政治】 副島種臣 (外務卿)、原敬 (首相)、大木遠吉 (貴院議員)  
 【官界・法曹】 吉井友実 (宮内次官)、城数馬 (司法官)、江木衷 (法律家)  
 【軍人】 東郷平八郎 (海軍大将・元帥)、横川省三 (軍事探偵)、三浦虎次郎 (軍歌「勇敢なる水兵」のモデル)  
 【地方自治】 矢野光儀 (小田県令)、平村ペンリウク (アイヌの首長)  
 【社会運動】 大杉栄 (無政府主義者)、奥村五百子 (婦人運動家)  
 【産業】 朝吹栄二 (王子製紙会長)、古河潤吉 (古河財閥2代目当主)、山下亀三郎 (山下汽船創業者)、片岡直輝 (大阪瓦斯社長)  
 【宗教】 千家尊福 (神道家)、結城無二三 (牧師・新撰組隊士)  
 【社会事業】 左近允孝之進 (日本初の点字新聞を刊行した)、池上雪枝 (少年感化院の先駆者)、川村矯一郎 (保護司制度設立の先覚者) …など5,345人

##### II 文学・芸術・学術篇

- 【文学】 正岡子規 (俳人・歌人)、辻潤 (評論家)  
 【新聞・出版】 野間清治 (講談社創業者)、結城礼一郎 (ジャーナリスト)  
 【建築・美術】 滝大吉 (建築家/滝廉太郎の従兄)、正木直彦 (東京美術学校校長)  
 【工芸・彫刻】 高村光雲 (彫刻家)、柴田是真 (蒔絵師)、中村秋塘 (陶芸家)  
 【絵画・書・写真】 黒田清輝 (洋画家)、小川一真 (写真家)、土岐源吾 (旅絵師)  
 【学術(人文・社会)】 吉野作造 (政治学者)、清水晴風 (郷土玩具研究家)  
 【学術(理工学)】 浅野応輔 (電気工学者)、柳栖悦 (数学者/柳宗悦の父)  
 【技術】 沖野忠雄 (土木技術者)、臥雲辰致 (ガラガラ紡績機の発明者)、梅錦之丞 (眼科医、梅謙次郎の兄)、小池正直 (陸軍軍医総監)、高橋瑞子 (開業試験に合格した3人目の女医)  
 【教育】 棚橋絢子 (女子教育家)、手島精一 (工業教育指導者)  
 【音楽】 滝廉太郎 (作曲家)、田中穂積 (佐世保海兵団軍楽隊長)  
 【演劇・演芸】 市川団十郎 (9代目) (歌舞伎俳優)、牧野省三 (映画監督)  
 【スポーツ】 内藤克俊 (パリ五輪レスリング代表・銅メダリスト) …など4,957人

2017.1

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名	注文書	明治大正人物事典 I 政治・軍事・産業篇 定価(本体17,000円+税) ISBN978-4-8169-2328-9	冊
		明治大正人物事典 II 文学・芸術・学術篇 定価(本体17,000円+税) ISBN978-4-8169-2329-6	冊
■お名前			

日下部 四郎太 くさかべ・しろうた

地球物理学者 東北帝国大学教授  
明治8年(1875)5月5日～大正13年(1924)7月3日  
〔山形県東村山郡金井村(山形市) 山形中(旧制)〔明治27年〕卒 二高〔明治30年〕卒,東京帝国大学理科大学物理学科〔明治33年〕卒 理学博士〔明治39年〕 〔生家は農家で、6人きょうだいの三男。幼い頃に近所の寺に雛僧として出されたが、実家に戻り小学校に通う。山形中学から二高、東京帝国大学理科大学に進み、田中館愛橋と長岡半太郎の薫陶を受けた。岩石の弾性に関する論文を発表した後、明治39年海軍技師となるが、40年新設される東北帝国大学教授に内定し、ヨーロッパへ留学。各地を見て回り、日本人として初めて北極圏へ足を伸ばした。44年帰国して東北帝国大学理科大学教授に就任。大正8年欧米へ出張。12年理学部長。地球物理学を専門とし、大正3年「岩石の力学的研究」により帝国学士院賞を受けた。巧妙な諷刺と警句を得意とし、晩年は信仰物理学という独自の道を進んだが、バラの棘によって鼻に手で触ったことから著書に「北極探検談」「物理学汎論」「信仰物理学異国行脚」「信仰物理学」 〔帝国学士院賞〔大正〕長男=日下部 文雄 二日下部 正雄(気象) 岳父=芳野 世経(衆議)

日柳 三舟 くさなぎ・さんしゅう

教育家  
天保10年(1839)～明治36年(1903)7月23日 〔讃岐国仲多度郡榎井村(香川県) 〔日柳 政愷 〔讃岐琴平の大地主・日柳家に生まれる。幼時医学を志すが、荒川栗園に儒学を学んで文学に興味を持ち、少年期から詩作を始める。明治2年高松で兵部史生を勤め、5年大阪府大属に転じ、学務課長を務め、数十の学校を創設する。12年には大阪師範学校校長に就任し、訓導の育成にも尽力した。のち官を辞して北桃谷に実業学校を設立する。また盲啞学校・愛育社を起こした。一方、浪華文会を作り教材の整理・開発を行い、教科書を出版した。日本の国定教科書の原型を作った人物として知られる。 〔父=日柳 燕石(博徒)

草野 清民 くさの・きよたみ

文法学者  
明治2年(1869)4月6日～明治32年(1899)9月10日 〔加賀国金沢(石川県金沢市) 〔帝国士

既存の人物事典には  
収録されていない人物も  
多数収録!

日下部 鳴鶴 くさか

書家  
天保9年(1838)8月1月27日 〔近江国(部) 東作,旧姓・旧名彦根藩士田中因大の下部三郎右衛門の養に長じ、とりわけ書の死没に際しては呉せられた。平成3年中記念として「呉昌碩誌の碑」が建立され、二郎(土木技師・実業

陸奥 宗光 むつ・むねみつ

政治家 外交官 伯爵 外相 農商務相 衆院議員(無所属) 神奈川県令  
天保15年(1844)7月7日～明治30年(1897)8月24日 〔紀伊国和歌山(和歌山県) 〔幼名=牛麿,号=福堂,土峰,六石,変名=伊達 陽之助,陸奥 小次郎 〔紀伊和歌山藩士・伊達千広の子。江戸で安井息軒、水本成美に学んだ後、脱藩した父が住む京都に移り、尊攘運動に参加。この頃、坂本龍馬と知り合い、神戸の海軍操練所では土佐藩士と偽って勝海舟の教えを受けた。のち薩摩藩士を称し、伊達陽之助、陸奥小次郎などの変名を用いて活動。3年龍馬の亀山社中・海援隊に加入した。王政復古の政変後、新政府に出仕したが、政府の人事が薩長土肥に偏るのに疑念を抱き、3年和歌山藩の強化を期して渡欧。帰国後の4年、神奈川県令に任ぜられ、5年外務大丞を兼務。一方で地租の改正を提言し、それが大隈重信に認められて、6年大蔵省地租改正局長に抜擢されるが、7年辞職。8年元老院議員となるも、10年西南戦争で林有造らと反政府拳兵を企図したとして免官され、禁獄5年の刑に処せられた。16年に釈放され、17年伊藤博文の勧めで渡欧。19年帰国して外務省に入り、21年駐米公使となり、メキシコとの間に日本初の対等条約を調印。23年第一次山県内閣の農商務相として初入閣。24年第1回総選挙で和歌山県から出馬して当選、同内閣閣僚中唯一の衆院議員となり、続く第一次松方正義でも留任したが、25年松方の選挙干渉に反抗して辞職した。同年枢密顧問官。同年第二次伊藤内閣の外相に就任して不平等条約の改正に努力し、27年日英通商航海条約を調印。念願であった治外法権回収に成功した。一方で清国に対しては強硬外交を進めて日清戦争開戦に踏み切り、戦後の講和条約締結及び三国干渉などの処理にも力を尽くした。在任中の外交政策は「陸奥外交」といわれ、その辣腕振りから「カミソリ陸奥」と呼ばれた。この間、27年子爵、28年伯爵。29年日ごろの激務から肺病が悪化し辞職。療養中に外交記録「蹇蹇録」を執筆したが、昭和4年まで公表されなかった。 〔長男=陸奥 広吉(外交官・伯爵),二男=古河 潤吉(古河財閥2代目当主),父=伊達 千広(歌人・国学者)

武藤 環山 むとう・かんだん

衆院議員(国民協会)  
天保7年(1836)12月20日～明治41年(1908)5月19日 〔本名=武藤 一忠(ムトウ イッチュウ) 〔肥後国菊池郡原村(熊本県) 〔安政2年(1855年)木下梅里に師事、のちその私塾の教授。菊池文芸倡方となり菊池文武講堂で経書を講じた。明治維新には諸種の公職に就き、14年自由民権論が起ると欽定憲法を主張し紫溟会を組織。のち国権党を結成、熊本県議となり、同参事会員、副議長として活躍。30年以来衆院議員当選2回。晩年は詩文を楽しみ、著書に「環山草堂詩文集」「男虎太編」がある。

武藤 金吉 むとう・きんきち

実業家 政治家 衆院議員(政友会) 帝国蚕糸重役  
慶応2年(1866)5月15日～昭和3年(1928)4月22日 〔上野国山田郡休泊村龍舞(群馬県) 〔号=龍山 〔英吉利法律学校卒 〔自由党に入り自由民権を唱え、尾尾鉦毒事件に活動。明治16年上京、法律学校卒業後は実業新聞、上野新聞を主宰。のち実業界に入り、帝国蚕糸、群馬農工銀行、山保毛織などの重役を務めた。23年以來群馬県から衆院議員当選8回、その間赤城事件に連座、獄中入候補して当選した。政友会に属し、43年ベルギーの万国議員会議に出席、前後3回欧米漫遊。イタリア、中国の蚕糸業を視察、蚕糸業発展に尽した。生産調査会委員、大日本蚕糸会評議員、大日本蚕糸同業組合中央特別議員などを務めた。昭和2年田中義一内閣の内務政務次官に就任。 〔従四位勲二等

武藤 幸逸 むとう・こういつ

農事指導者 群馬県議  
天保9年(1838)3月28日～大正3年(1914)8月20日 〔本名=新居 幸逸 〔群馬県竜舞村長、群馬県議を務めた。明治11年共農舎を創設し、欧米式農法を取り入れた。

武東 晴一 むとう・せいいつ

築地警察署長  
嘉永5年(1852)～大正1年(1912)12月24日 〔周防国(山口県)

各人物の肩書・職業、  
生没年月日、  
名(本名・旧姓旧名・号など)、  
出生地、経歴、学歴、  
家族などがわかる